

河邑厚徳+グループ現代 著

『エンデの遺言 根源からお金を問うこと』

(日本放送出版協会)

本書は「モモ」の作者で幻想的な作風で文明批判を行ったミヒヤエル・エンデが1995年8月に65歳で亡くなる前の、1994年2月に彼の自宅で録音したテープを基にしています。

お金について、ある教授は交換の媒体以外に、価値の尺度、価値の保存、そして投機的利益の道具、支配の道具と分析しているのです。我々が日常の食物を買う購入代金としてのお金と、株式取引所で扱われる資本としてのお金は、異なる種類のお金という点に着目、世界金融システムの未来に注目させられる本です。 337-Kaw (S.O.)

岩淵功一 著

『トランスナショナル・ジャパン』

(岩波書店)

今日、日本に関する情報は他のアジア諸国にも発信されています。その中で日本のTVドラマや音楽なども伝わり、人気が出ています。この現象にはどのような背景があるのでしょうか。

本書では、日本のポピュラー文化に対する他のアジア諸国の認識や、逆にアジアのポピュラー文化に対する日本での認識などが分析されています。日本文化のある一面を知ることができ、お勧めの一冊です。 361.5-lwa (S.I.)

工藤庸子 著

『サロメ誕生 フローベール/ワイルド』

(新書館)

『新約聖書』の登場人物サロメの名前が広く知られるようになったのは、オスカー・ワイルドの『サロメ』の影響ではないかと思われていますが、この戯曲は世紀末の幻想とワイルドの色彩豊かな文章によって世紀末を代表する戯曲になりました。

本書は、著者自身のワイルドの『サロメ』とフローベールの『ヘロディア』の新訳を付して、サロメの誕生によってヨーロッパにおけるオリエンタリズムの影響を探っています。

950.2-Kud (H.T.)

林 望 著

『パソコン徹底指南』

(文藝春秋)

本書はコンピュータの専門家が書いたものではありません。そうです。あの『イギリスはおいしい』の著者です。パソコンを使う利点、キーボード・アレルギーを克服する方法などから始まり、パソコンとの付き合い方を軽妙な語り口で展開しています。マニュアル本では絶対に出てこないような本音の部分もあり、楽しく読み進むことができます。パソコンは苦手という方を勇気付けてくれる一冊です。 007.6-Hay (T.F.)

田島英一 著

『「中国人」という生き方』

(集英社)

中国と日本は、長い交流の歴史があり、日本は古来より多くの技術や文化を学び、日本文化の中に取り入れて来ましたが、その考え方までに影響を与えられたとは限りません。現代中国のありのままの姿はあまり知られていません。

本書は16のこたばをキーワードに、中国語研究者である著者が、12億の現代中国人の姿を表わした書であり、中日文化比較に最適の一冊です。

361.42-Taj (N.I.)

